

2011年度 修学院フォーラム
「いのちを考える」
第2回

(財)日本クリスチャン・アカデミー
関西セミナーハウス活動センター

これまでの生命倫理・医療倫理の枠を越えて、「いのち」をどのように考えるのか、その根本のところを様々な方のお話を伺いながら考えて行きたいと思います。

71年間ハンセン病療養所に生きて

講師：上野 正子（国立療養所星塚敬愛園入所者）

13歳のとき、父に連れられて沖縄より、鹿児島島の敬愛園に診察を受けに来て以来、今日まで71年間療養所で生きてきました。子どもが大好きなわたしは、結婚して子どもを産み育てることが夢でした。けれども、それは無残にも砕かれました。1998年7月、夫と共に「ハンセン病国家賠償訴訟」の第一次原告13名の1人として立ちましたが、意外にも、多くの非難を園内の人たちから受けました。運命の2001年5月11日、勝訴した日は、人間回復のわたしの誕生日だと思っています。その日から親のつけてくれた「正子」という名に戻りました。小さい頃の私の夢は、学校の先生になることでした。84歳になった今、大学や高校だけでなく、小学校からも招かれてお話することがあります。そういう時は、本当に幸せを感じています。少しでも多くの方たちに、これまで生き抜いたわたしの人生を語っていきたいと思っています。（上野正子）

日時：2011年 7月9日（土） 13:30～17:30

場所：関西セミナーハウス

※会場への地図は裏面をご覧ください。

参加費：2,000円、学生500円

ご参加希望の方は、7月6日までに FAX(裏面)、電話、電子メール等でお申し込み下さい。ただし、定員に達し次第締め切ります。



上野 正子 UENO Masako

1927年4月、沖縄県八重山群島生まれ。1940年、沖縄県立第二高等女学校入学。同年12月18日、鹿児島県鹿屋市国立ハンセン病療養所「星塚敬愛園」入所。1946年、上野清氏と園内結婚。1996年4月、「らい予防法」廃止。1998年7月、ハンセン病国家賠償訴訟の第一次原告となる。2001年5月11日、勝訴。2007年8月10日、夫・清氏逝去。現在、ハンセン病の語り部として学校などで講演を行っている。恵生教会会員

著書「人間回復の瞬間（とき）」南方新社（2009年）

2011年度 修学院フォーラム「いのちを考える」のご案内

第 1 回 2011年 5月14日 (土)

「キリスト教と生命観」

講師：ホアン・マシア (イエズス会士)

第 3 回 2011年11月5日 (土)

「誕生・生・死について考える

—キリスト教倫理と一般 倫理のはざままで」(仮)

講師：関根 清三(東京大学人文社会系研究科教授)

第 4 回 2011年12月17日 (土)

「いのちからの問い、いのちへの問い

—生命倫理を超えて」(仮)

講師：安藤 泰至 (鳥取大学医学部准教授)



(財) 日本クリスチャンアカデミー
 関西セミナーハウス活動センター
 〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23

<http://www.academy-kansai.org>

電話 075-711-2115

FAX 075-701-5256

電子メール office@academy-kansai.org

運営委員長 小久保 正

プログラム係 都木かおり



* 地下鉄烏丸線松ヶ崎駅、叡山電鉄修学院駅までワゴン車で送迎いたします。定員がありますので、ご希望の方は予めお知らせ下さい。地下鉄の最寄駅は松ヶ崎駅ですが、北山駅のほうがタクシーを拾いやすいです。

2011年度 修学院フォーラム「いのちを考える」第 2 回 参加申込書

<small>(フリガナ)</small>	
名 前	所 属
住 所 〒	
電話 ()	FAX ()
電子メール: @	
通信欄	